

角膜移植への理解を

奈良で
シンポジウム
献眼テーマに講演も



「献眼」をテーマに講演する丸岡さん。2日、奈良市学園前南3丁目の同市西部会館市民ホール

角膜移植に対する正しい知識の普及と献眼推進の啓発を図る第35回京都・滋賀・奈良地区アイバンクシンポジウム

「あなたへの愛の光をアイバンクへ」(県アイバンク、アイバンク愛の光基金管理会、ライオンスクラブ国際

協会3351C地区主催、奈良新聞社など後援)が2日、奈良市学園前南3丁目の同市西部会館市民ホールで開かれ、市民ら約100人が参加した。

会場を京都2カ所、滋賀と奈良各1カ所の合計4カ所に分け、毎年順番に開いており、奈良は4年ぶり。

県総合医療センター眼科副部長の丸岡真治

さんが「献眼について」と題して基調講演。県内では角膜提供者が平成27～29年にかけて1～8人だったのに対し、角膜移植希望患者は30年3月末現在で35人いると指摘、慢性的な角膜不足状態になっていることを説明。アイバンクへの理解と協力を求めた。

この後、全盲のソプラノ歌手兼エッセイストの塩谷靖子さんのコンサートがあり、娘の塩谷多衣さんがピアノ伴奏、高らかに歌声を会場に響かせた。